

<p>【技術の名称】 EAGLE杭頭工法—杭頭部鋼管巻き場所打ちコンクリート杭頭工法—(改定)</p>	<p>性能証明番号：GBRC 性能証明 第10-25号 改 性能証明発効日：2011年12月6日</p> <p>【取得者】 一般社団法人新基礎開発機構、システム計測株式会社、 プラン・ドゥ・ソイル株式会社、丸五基礎工業株式会社</p>
---	---

【技術の概要】

本技術は、場所打ちコンクリート杭の杭頭に巻かれた鋼管の上下端部内面にフレアー溶接された鉄筋とコンクリート中に配筋された杭主筋とのあき重ね継手による応力伝達により鉄筋コンクリートと鋼管の一体化をはかる技術である。鋼管の上端部では基礎中にアンカーされる杭頭部埋込み鉄筋と杭頭部鋼管コンクリートを一体化し、鋼管の下端部では鋼管コンクリート中にアンカーされた杭中間部主筋と鋼管コンクリートを一体化し、杭頭部および杭継ぎ手部に発生する軸力および曲げ応力を伝達する。鋼管内部のコンクリート部分には杭主筋が通して配筋される場合と、上端では杭頭部の埋込み鉄筋が、下端では杭中間部の鉄筋コンクリート部主筋がアンカーされてその間の鋼管中間部には鉄筋が配筋されない場合の2種類の形式が用意されている。

本技術は、2011年3月24日に(財)日本建築総合試験所建築技術性能証明 第10-25号として性能証明されたものであり、今回の改定では、使用する鋼管の種類を追加、鋼管内部に杭主筋が通して配筋される場合には杭頭部の鋼管内面に溶接鉄筋を設けない形状への変更、及び申込者の追加を行っている。



写真1 曲げせん断試験 試験装置全景

【技術開発の趣旨】

杭頭部鋼管巻き場所打ちコンクリート杭では、鋼管と鉄筋コンクリート部との付着力を高めるために鋼管内面に溝状のリブを施した特殊な鋼管を使う工法等があったが、本開発の工法はこの付着力を確保するために鉄筋を鋼管内面にフレアー溶接し鋼管上下端部での応力伝達を可能にすることを意図して開発されている。

【性能証明の内容】

本技術についての性能証明の内容は、以下の通りである。申込者提案の「EAGLE 杭頭工法 設計・施工指針」に従って設計・施工した杭頭鋼管コンクリート部は、設計で保証すべき長期荷重時および短期荷重時の構造性能を有し、同設計指針で定める終局耐力を有すると判断される。

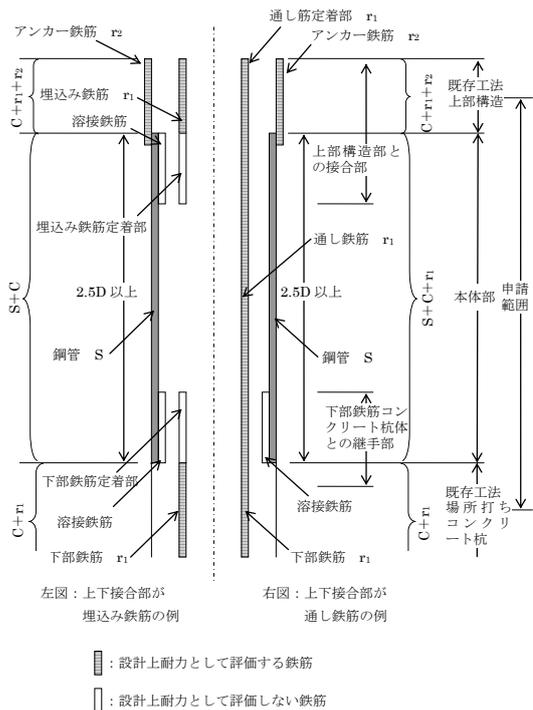


図1 EAGLE 杭頭工法杭の説明

【本技術の問合せ先】

一般社団法人新基礎工法開発機構 担当者：兼平雄吉
 〒542-0082 大阪府大阪市中央区島之内 2-10-27
 システム計測株式会社 担当者：中西義隆
 〒130-0026 東京都墨田区両国 1-13-1
 プラン・ドゥ・ソイル株式会社 担当者：菅原 孝夫
 〒135-0007 東京都江東区新大橋 2-17-8 斉藤ビル 201号
 丸五基礎工業株式会社 技術研究所 担当者：井口 与一
 〒530-0044 大阪府大阪市北区東天満 2-6-2

E-mail : kouhoukaihatu@live.jp
 TEL : 06-6214-0680
 E-mail : y-nakanishi@systemkeisoku.com
 TEL : 03-3635-8556 FAX : 03-3635-8573
 E-mail : takaosugawara09056051513@gmail.com
 TEL : 03-3635-8559
 E-mail : giken2@marugokiso.co.jp
 TEL : 06-6358-3623 FAX : 06-6354-2690